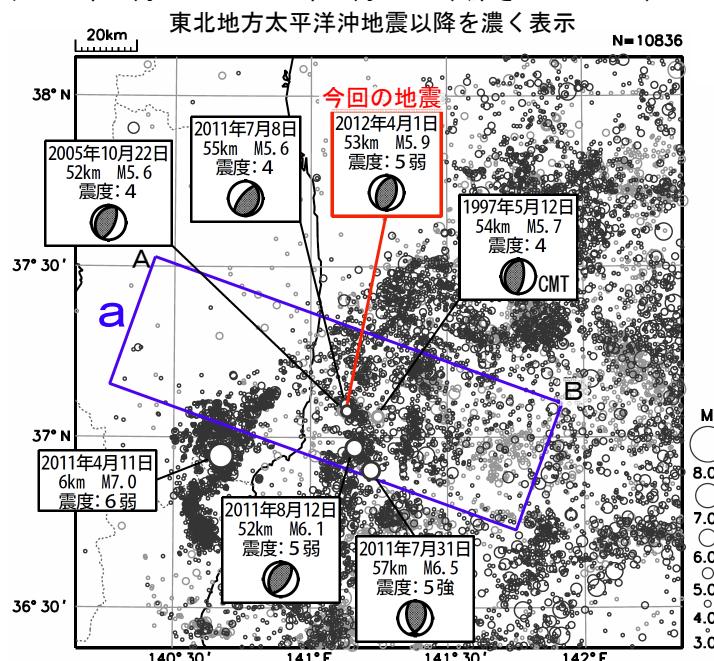


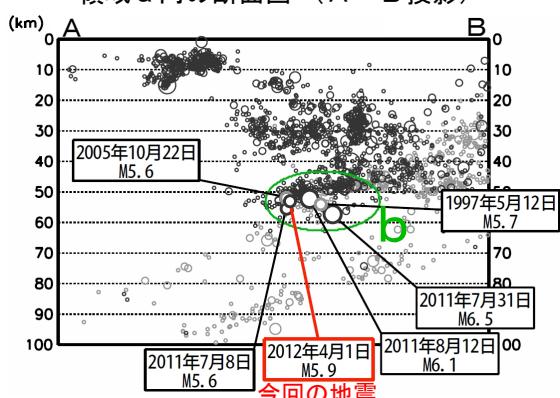
4月1日 福島県沖の地震

震央分布図※

(1997年1月1日～2012年4月30日、深さ0～100km、M≥3.0)



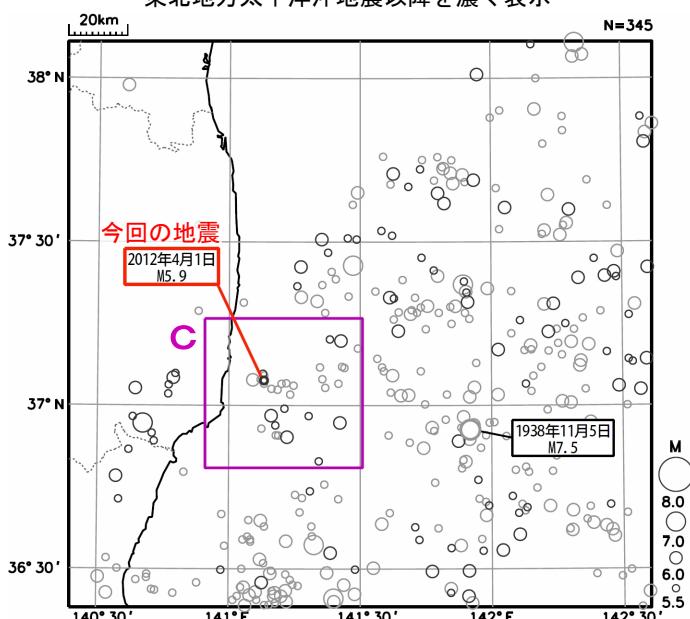
領域a内の断面図※(A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2012年4月30日、深さ0～100km、M≥5.5)

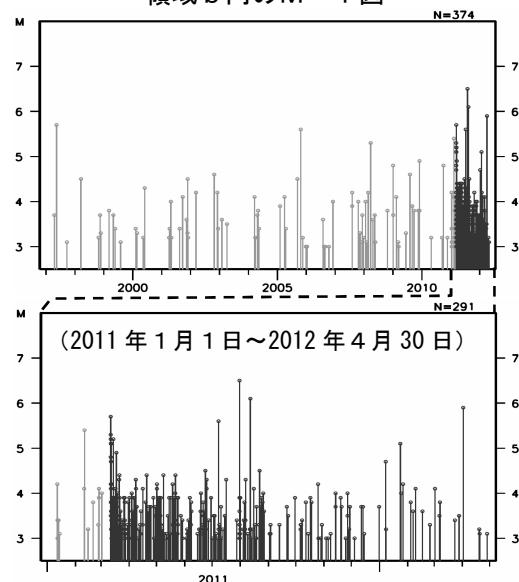
東北地方太平洋沖地震以降を濃く表示



2012年4月1日23時04分に福島県沖の深さ53kmでM5.9の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震の発震機構は西北西～東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）は、もともとM5.0以上の地震が時々発生するような場所だった。「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」発生後、地震活動が活発化したが、2012年4月末現在、領域bでの地震活動は次第に低下している。

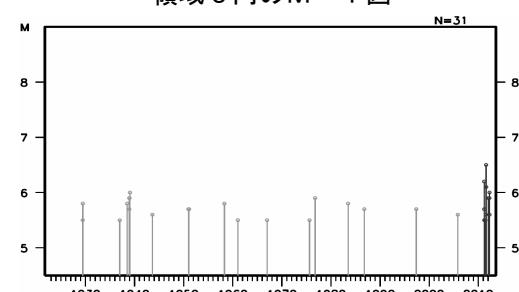
領域b内のM-T図※



※ 2011年3月13日～5月30日は未処理のデータがある。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）では、M5.5以上の地震が10年に1～2回程度発生していた。領域cでの地震活動が活発な時期がこの期間中に2回あり、1つは現在も続く「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震活動である。もう1つは1938年11月で、領域cを含む福島県沖から茨城県沖で、M7.5の地震を最大とするまとまった地震活動が発生していた。

領域c内のM-T図



気象庁作成